



# 明化の教育

1月号 (第507号)

令和5年1月10日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

## 教えるから学ぶへ ～「新年の誓い」として～

校長 熊倉 勝



12月の「たてわり俳句吟行」は、3年ぶりに小石川植物園で実施し、自然に大いに親しましました。

令和5年がスタートしました。旧年中は、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとして、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。皆さまにとって本年が幸多き年となることを心から祈ります。本年も、明化小学校をどうぞよろしく願います。

さて、「一年の計は元旦にあり」とよく言われます。ご存じの通りこの言葉には、何事もまず初めに計画を立てることが大事であるという意味が込められています。本校では、新年を迎えるにあたって子供一人一人が目標を立て、「新年の誓い」として形に残す活動を全校で取り組んでいます。目標を立てることで意欲が高まり、目標を達成

することで自信をつけるなどのよさがあるからです。そして、各学年の代表1名が始業式で、その誓いの言葉を発表することを毎年行っています。目標を立てることはあっても、全校の前で決意を述べることは、私にとって初めての経験でした。みんなの前で誓いの言葉を述べることで、頑張ろうとする気持ちは、倍増することでしょう。さらに、それを見守る子供たち。子供たち同士のよい関係づくりにもつながるものと考えます。本日の始業式でも、6名の児童が「新年の誓い」の言葉を発表しました。

- 持久走をがんばります。 ○人を大切にして、いつもニコニコクラスになれるようにします。
- 去年よりもっと大きな声で、前を向いてあいさつをします。
- 早寝早起きをがんばり、器楽部で学校に早く行って、たくさん練習してうまくなりたいです。
- アンサンブルコンテストで金賞を取れるように毎日、朝の練習に行き、細かいリズムをみんなと合わせてよい演奏ができるようにします。また、高学年として下級生に分かりやすく教えます。
- 今年は、部活動と勉強がしっかりできるように文武両道を目指します。そして、中学生になっても授業についていけるように意識して生活したいと思います。

学校生活のこと、器楽部のこと、進級に向けての心構えなど様々でしたが、新年を迎え、気持ちを新たに頑張ろうとする心の高まりを感じることができました。このように自分の思いを力強く発表する姿は、希望に満ちていて、とても晴れやかでした。子供たちの今の気持ちを大切にして、一人一人が目標を達成できるように、頑張ったことを認め、励まして支えていきたいという思いを強くしました。

そこで、私も考えてみました。今年の新年の誓いは、「子供の主体性を伸ばす」です。この目標を達成するために授業では、「教師が教えるから、子供たちが自ら学ぶ」への転換が必要であると考えます。松島健先生（神戸大学名誉教授・イギリス文学）は講義で「教師が学生にできること。それは、例えば、月を見ている学生に、そっと水を張った器を差し出してやる。そこには、月が映る。月（学ぶ対象）を学生の手元に届けてあげる。そういうことです」と話されています。「いかに正しい知識を正しく教えるか」ではなく、「いかに学びが生まれる状況を作るか」に力を入れていく。教師がこのような意識をもつことで、学習が教師主体から子供主体に変化していきます。例えば、子供の素朴な疑問から単元全体の学習問題を設定したり、学習問題を解決するために子供たち自ら学習計画を立てたりする問題解決型の授業等を工夫していくことを通して、子供の主体性を伸ばしていきたいと気持ちを新たにしました。

本年も教職員一同、保護者・地域の皆様と手を携えて、全力で子供たちの教育にあたって参ります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。